

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所の事故分析に関する面談
2. 日時：令和5年11月10日（金）13時30分～15時40分
3. 場所：原子力規制庁8階北会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

安井企画調査官、岩野調整係長

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 燃料デブリ取り出しプログラム部 担当者4名
(担当者4名のうち、1名はテレビ会議システムにて参加)

原子力設備管理部 担当者2名

プロジェクトマネジメント室 担当者1名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会（以下「事故分析検討会」という。）第40回会合にて発言のあった「放射性物質が格納容器の設計漏えい率で建屋側に流出した場合に、建屋内の線量が数百mSv/h程度になる」との評価に関して、その評価条件、評価結果等について資料に基づき説明があった。また、東京電力柏崎刈羽原子力発電所における事故時の格納容器ベント実施に伴う現場作業の線量評価についても併せて説明があった。
- これに対して、原子力規制庁から東京電力に、当該評価の解析モデル、当該評価を行った経緯等について事実関係の確認を行った。
- また、東京電力から、事故分析検討会第40回会合にて議論した「2号機PCV内部調査・試験的取り出し作業の準備状況」に関して、X-6ペネ周辺の現場情報について資料に基づき説明があった。
- これに対して、原子力規制庁から東京電力に、これまでの調査で確認されている堆積物の性状、X-6ペネ内部の状態等について事実関係の確認を行うとともに、改めてX-6ペネ内部の堆積物を採取し、その成分・組成を分析することを求めた。
- これに対して、東京電力から了解した旨の返答があった。

6. 資料

- 別紙33 格納容器ベント実施に伴う現場作業の線量影響について
- 7号機 テクニカルサポートガイド 格納容器からのリークFPによる原子炉建屋放射線モニタの応答（柏崎刈羽原子力発電所7号機）

- アクシデントマネジメントの手引き 福島第一1号機（BWR3） 格納容器からのリークFPによる原子炉建屋放射線モニタの応答
- 2号機 X-6ペネに関する現場情報

以上